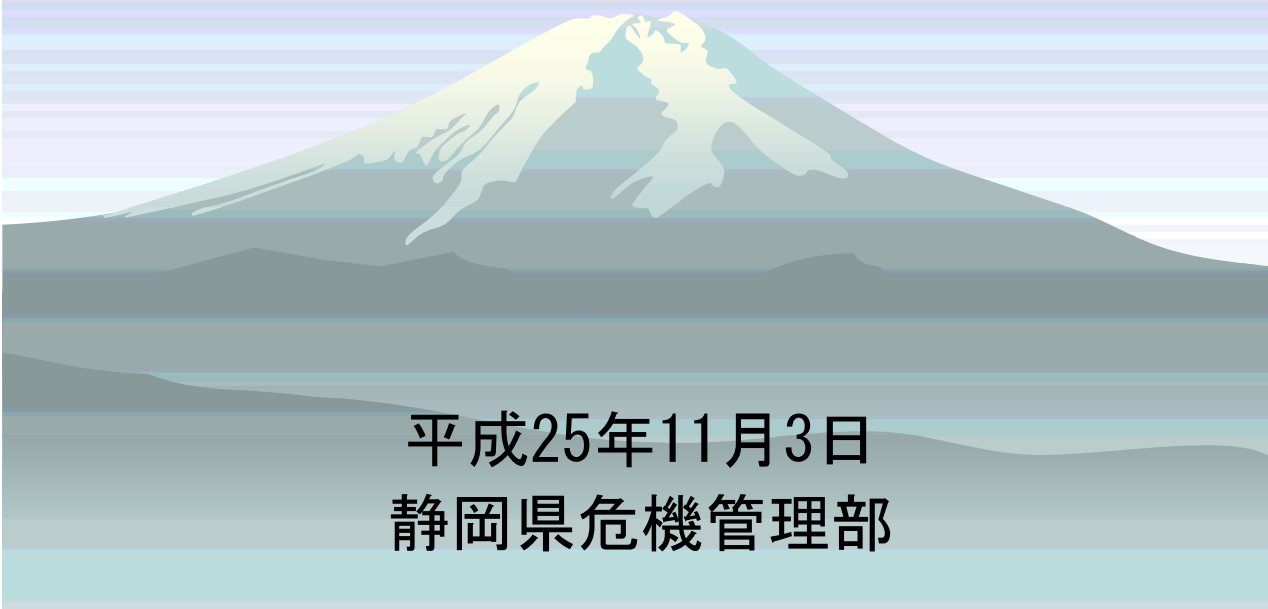
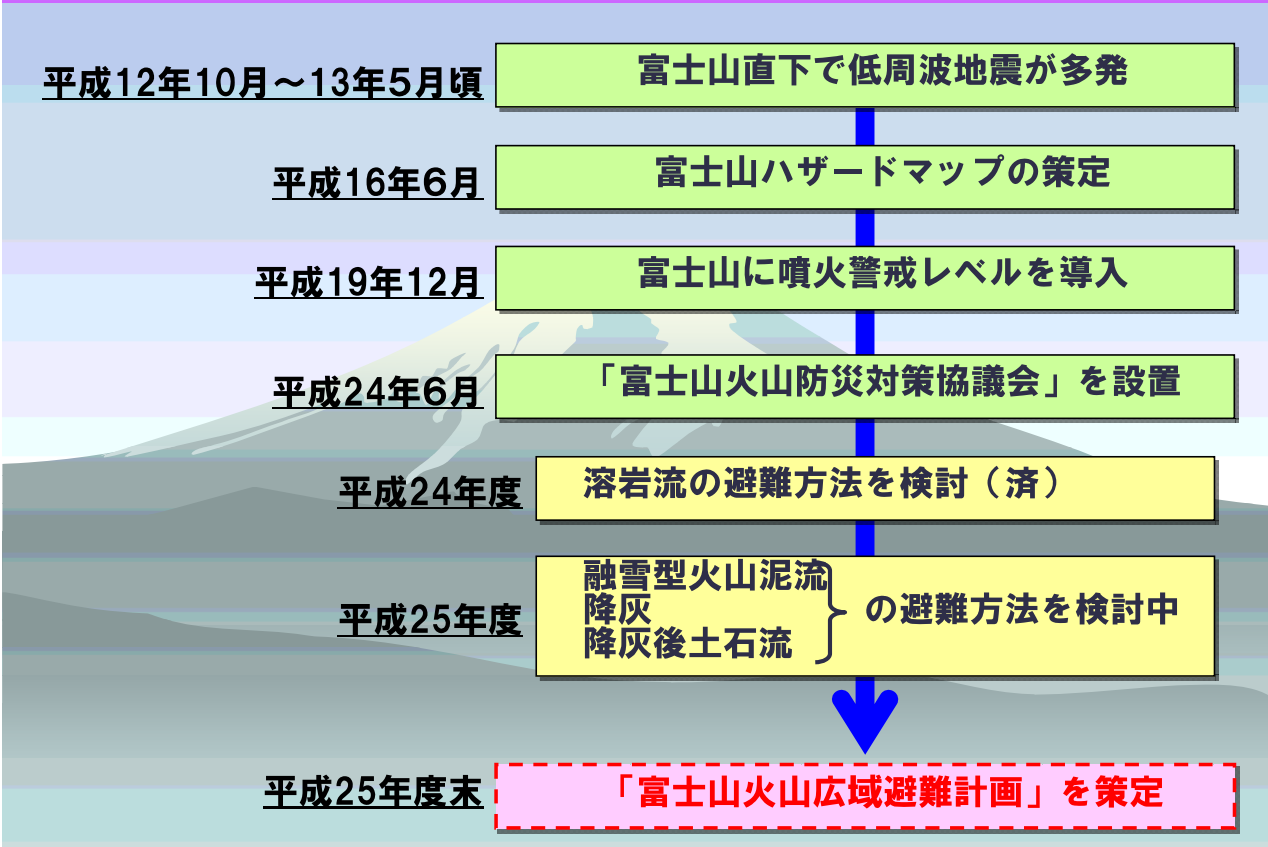


# 富士山火山広域避難計画 の考え方



## 1 計画策定の背景



## 2 計画の位置付け

### 広域避難計画（協議会）

- 様々な火山現象のうち、緊急かつ広域的な対応が求められる火山現象を対象とする
- 協議会に参加している地方公共団体の管内を主な対象区域とする
- 災害対策基本法第40条の都道府県地域防災計画及び同法第42条の市町村地域防災計画の作成に資する

広域避難計画との整合

### 避難計画の作成（市町村）

関係市町村が策定する詳細な避難計画

### 地域防災計画の改正（県・市町村）

広域避難計画の内容を含む「火山対策の巻」の改正

## 3 計画の基本理念

理念  
①

### 富士山で想定される複数の火山現象に対応

火山現象を組み合わせて合理化  
「火砕流」「噴石」「溶岩流」「融雪型火山泥流」「降灰」「降灰後土石流」

理念  
②

### シンプルでわかりやすい計画

いつ、だれが、どこへ避難すればいいのかを明確化

理念  
③

### 住民の安全を確保しつつ現実的な避難

避難対象者が安全に無理なく避難できるプラン

理念  
④

### 避難計画と避難対策に分割

住民の自助・共助による避難計画と  
サポート（公助）する実施体制や避難対策

# 4 広域避難計画書の構成

各県共通

## 第1編 総論

序章 広域避難計画について

- ◆計画の位置付け
- ◆計画の前提 など

各県共通

## 第2編 避難計画

第1章 基本方針  
第2章 広域避難計画

- ◆広域避難計画  
(だれが、いつ、どこへ)
- ◆避難の解除 など

各県独自の  
内容

## 第3編 避難対策

第1章 避難等に係る体制  
第2章 避難対策

- ◆火山防災体制
- ◆避難計画に関する各種対策

各県独自の  
内容

## 第4編 資料

- ◆避難に関する各種リスト

# 5 対象とする火山現象

具体的な避難計画を策定するためには、影響範囲（ハザードマップ）が必須であることから、本計画では、火山活動に直接起因する現象のうち富士山ハザードマップ検討委員会においてハザードマップが作成された火山現象を対象とする。

なお、山体崩壊(岩屑なだれ)については、ハザードマップにおいて具体的な影響範囲や発生の予測等が明らかになった時点で検討することとする。

区分	3200年前以降複数の実績があり、発生頻度が高い現象	それ以外の現象	影響範囲を示すことが困難な現象
火山現象	①火口形成 ②火砕流（火砕サージ） ③噴石 ④溶岩流 ⑤融雪型火山泥流 ⑥降灰 ⑦降灰後土石流	・山体崩壊 (岩屑なだれ)	・水蒸気爆発 ・火山ガス ・空振 ・火山性地震（地殻変動） ・洪水氾濫 ・津波
富士山 ハザードマップ 検討委員会	ハザードマップ作成	災害実績図のみ	文章による記述のみ
広域避難計画	<b>対象とする</b>	対象外	対象外

※広域避難計画の対象外となる火山現象についても、避難しなければ被害を受ける可能性があることから、一般的な注意事項として避難計画書に記載することを検討する。

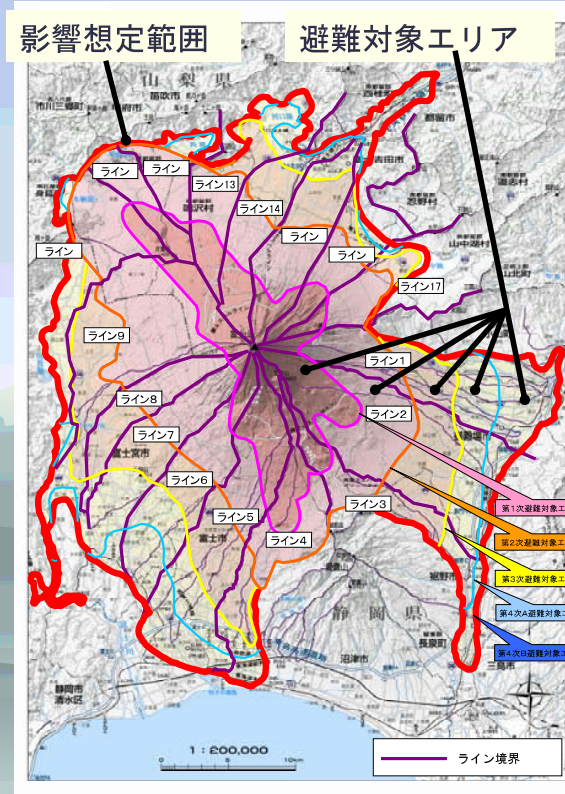
# 6 計画の前提

## ○ハザードマップ

原則	富士山ハザードマップ検討委員会報告書（平成16年6月）を基本とする。 なお、以下の火山現象については、それぞれ補正を行う。
融雪型火山泥流	国土交通省富士砂防事務所のシミュレーション（平成24年度）の結果を追加する。なお、これ以外の融雪型火山泥流の開始点について同事務所が検討を行っており、今後、必要によりシミュレーション結果を追加する。
降灰	可能性マップは、富士山ハザードマップ検討委員会報告書とするが、具体的な避難範囲の設定については、気象庁が作成した降灰シミュレーション（平成24年度）を使用する。

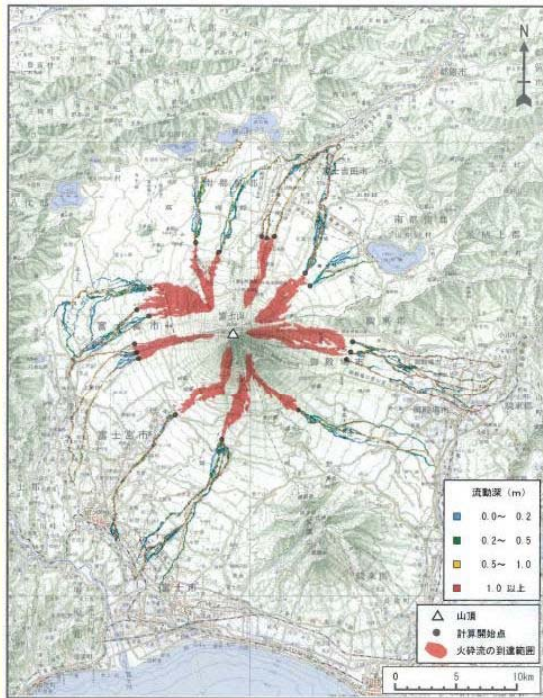
※ハザードマップ策定後、様々な研究等により多くの知見が明らかになっていることから、今後、必要に応じて火山専門家等の意見を参考にハザードマップの見直しや避難計画の検討を行う。

## (1) 溶岩流の避難計画図（24年度策定済）

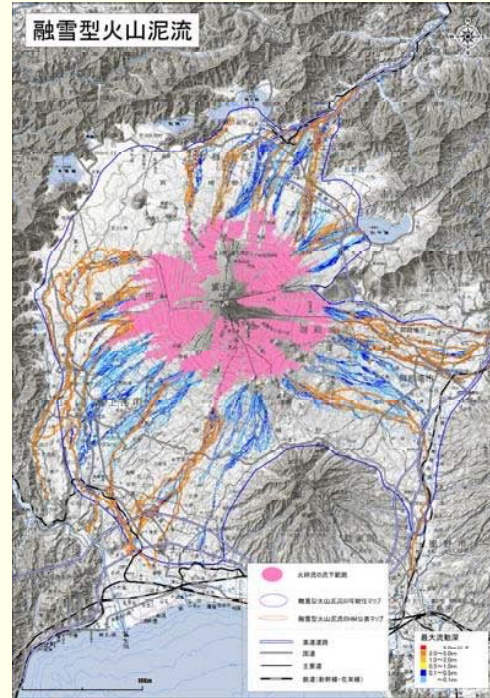


## (2) 融雪型火山泥流

ハザードマップ検討委員会報告書  
(融雪型火山泥流ドリルマップ)

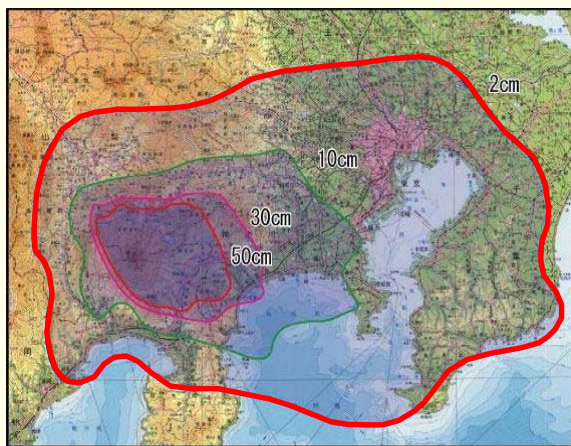


富士砂防事務所シミュレーション  
(追加シミュレーション後)



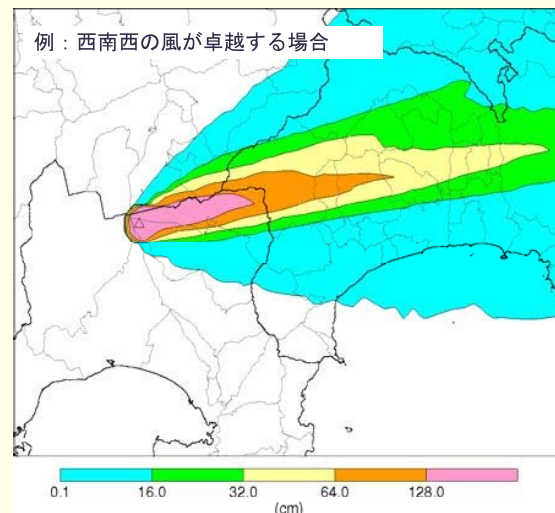
## (3) 降灰

ハザードマップ検討委員会報告書  
(降灰可能性マップ)



降灰可能性マップ

降灰シミュレーション  
(イメージ)



※シミュレーション結果のイメージ図 気象庁作成

# 7 避難計画の対象となる範囲

4つの「影響想定範囲」と「避難対象エリア」を設定

## 影響想定範囲

影響が想定される範囲(富士山ハザードマップの可能性マップ等)

## 避難対象エリア

本計画の避難の対象となる範囲

※避難対象エリアは基準を示したものであり、実際の避難時には、火山の状況や合同会議等での協議を踏まえて弾力的に対応することとする。

- ①～④火砕流、噴石、溶岩流影響想定範囲 (H24作成)
  - ⑤融雪型火山泥流影響想定範囲
  - ⑥降灰影響想定範囲
  - ⑦降灰後土石流影響想定範囲
- } H25検討中

# 8 富士山ハザードマップ等のGIS表示

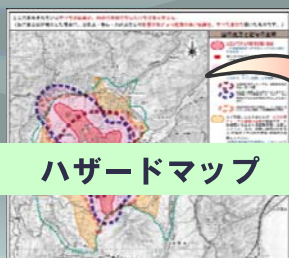
## ■目的

富士山火山広域避難計画を広く周知

いつでも！誰でも！直感的に！分かりやすい！表示

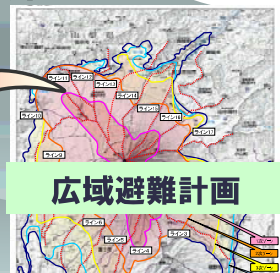
## ■構成のポイント

- ・「ハザードマップ」と「避難計画図」の両方を表示  
⇒避難計画の理解には、ベースであるハザードマップを知る必要がある
- ・「ハザードマップ」は、その成り立ち(ドリルマップ)も表示する
- ・「避難計画図」は、火山現象および行動タイミングが分かる表示とする



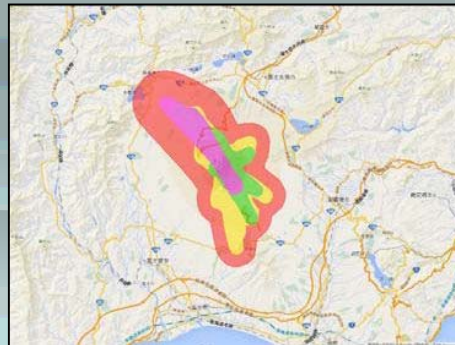
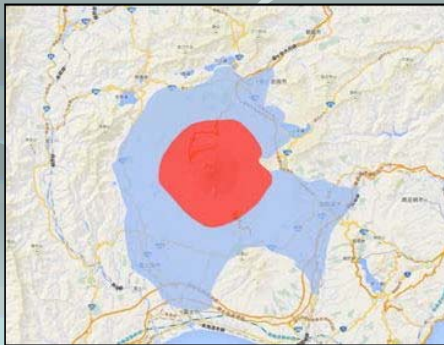
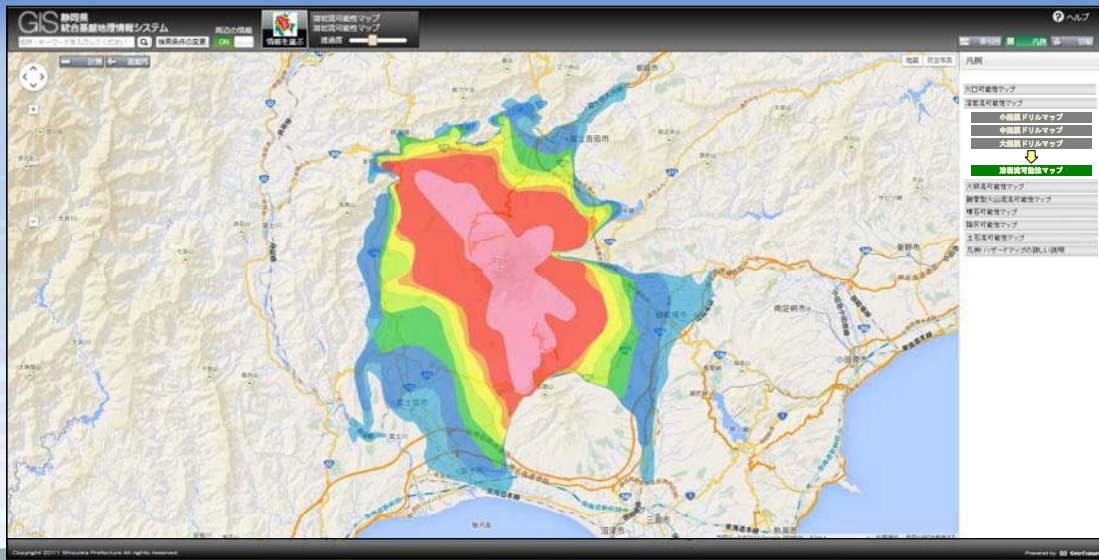
ハザードマップ

GIS 静岡県  
統合基盤地理情報システム



広域避難計画

「いつ、誰が、どこから避難すべきか」 避難計画を視覚的に提示



※画面は開発中のものであり、実際とは異なります。